

白沙村莊・橋本関雪記念館におけるニホンイシガメ放流活動

門脇一貴（関西遊亀会）

The release of Japanese pond turtle to semi-natural pond of Kyoto

By Kazutaka KADOWAKI

京都市左京区にある国指定名勝地・^{はくさそんそう}白沙村莊は大正，昭和期の京都画壇を代表する日本画家，^{はしもとかんせつ}橋本関雪が理想を描いて作った約 10000 m²の回遊式日本庭園である。

庭園内の巨大な池は昭和 30 年代に京都市内を流れる琵琶湖疏水から切り離され，湧水のみによって維持されている。そのため，外部からの水生生物の侵入は一切なく，近年増加している外来生物とは無縁であり，昭和 30 年代の日本の自然生物層が保持されているといえる。事前調査では，カメ類の存在は確認されていない。

この池に 2015 年度より兵庫県姫路市内において人工繁殖させたニホンイシガメの幼体を年ごとに 10 体ずつ，2017 年までに累計 30 体，毎年 9 月に放流した。放流したニホンイシガメはいずれも兵庫県姫路市内の川より採集された親から得られた子であり，背甲長 6cm 前後の 1 歳である。放流個体は翌春にも生存していることが確認されており，同池にて越冬，定着していることが伺える。

本活動は来年度以降も継続予定であり，放流された個体が性成熟すればいずれは当池でも自然繁殖することが予想される。

現代日本の自然環境においては減少の一途を辿るニホンイシガメだが，ここ白沙村莊では保護と繁殖が行われて順調に数を増し，将来のニホンイシガメの生態研究の基幹観察区域となることが望まれる。

（協力・公益財団法人 橋本関雪記念館 代表理事 橋本眞次氏）



日本画家が、東山の麓に描き出した文人の理想郷。